

子どもたちの おかげで

東大阪市立楠根小学校・教諭

藤井 智瀬

教育者としての言葉

私は、初日から教師であるという自覚を強く持つことができました。始業式当日、39名の子どもたちに出会い、教室で最初にすること、それは席に座ってもらうことでした。私は、緊張しながらも「適当に座って」と言ったのです。すると、どうでしょう。「適当」ってどういうこと〜!?と早速指摘を受けてしまったのです。私たち大人は、「適当にやっつくわ」「その辺は適当でいいよ」というように、『適当』という言葉は何気なしに使用しています。しかし、教育者としては良くないことに気付かされたのです。「好きな所に座っていいよ」と言うだけで、子どもたちの反応は全く別のものになっていきました。初日のこの経験により、教師としての言葉の持つ影響力、重要さを実感し、一つひとつのことを大切にしながら子どもと接しています。

やっばり楽っすー!

「教師という仕事は、100個あるうちの99個はともつらくて苦しいもの。しかし、そのうちのたった1個が何事にもかえがたいほど嬉しく、貴重なもの

研究授業（初任者研修）



のであるから辞められない」。ある先生の一言です。

つらいこともたくさんありますが、やっばり子どもと一緒に過ごすことは楽しいことです。一緒に雪合戦をしたり、鬼ごっこをしたりして遊ぶことももちろん楽しいですし、声かけによって子どもたちがどんどん成長していくのを肌で実感できることも非常に嬉しいです。さらに、子どもたちは私のことを一所懸命分かっていてくれます。研究授業ではいろいろと助けてくれました。こんなに楽しく、嬉しいことがある環境に存在しうることに感謝し、頑張っていると思うています。

れ ・ こ れ

MR になつて

田辺製薬株式会社盛岡営業所

MR（医薬情報担当者）

大光 加奈恵

製薬会社の営業として

2005年4月、田辺製薬株式会社MR職として入社しました。MRとは、簡単に言うと製薬会社の営業職のことです。病院を訪問し、有効性や安全性、副作用などの医療用医薬品の情報を医師や薬剤師の先生方にご紹介するというのが主な仕事です。

薬学や自社医薬品の知識を身に付けるために、4月から8月は、研修を受けました。そして9月、盛岡営業所へ配属となり、現在、現場に出て半年が経とうとしています。医師や薬剤師の先生方に面会し、自社製品を紹介していますが、まだまだ分からないことも多く、自分の知識不足や話し方の下手さに落ち込んだり、悩むこともありま

患者様のために

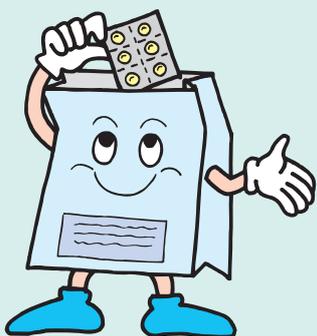
就職活動で、多くの業界の中で、MRの仕事を選んだのは、医師に薬を紹介することにより、間接的にはありますが、人々の健康を守ることができるといふ点に魅力を感じたからです。医師や看護師とは違うので、直接医療行為はできません。しかし、薬を医師に紹介し、多くの患者様に処方してい

ただくことで、患者様の健康に貢献できると、私は思っています。

MRは営業職で、目標の数字もあります。期末になれば、当然、数字の追及もあります。でも、様々な病気で苦しんでいる患者様のために働いていると思えば、やる気が出てきます。これからも多くの人々の健康を守るために働いているという気持ちで、仕事をしていきたいと思っています。

知識も経験もまだまだ乏しく、上司や先輩方に助けてもらいながら仕事をしています。最近になって少しずつ、仕事にも慣れてきました。

自分の意志で選んだMRという仕事。落ち込んだり、悩んだりもしますが、毎日充実した日々を送っています。日々努力を続け、MRとして一人でも多くの人々の役に立てるようになりたいと思います。



教育行政に携わって

京都市教育委員会
学校指導課 廣田 藍子

教育大学を卒業して

現在、私は京都市の教育委員会で行政職員として働いています。京都市に採用され、配属先が教育委員会に決まったとき、大学での勉強や経験を少しも生かすことができなかつたと思います。

しかし、実際に業務に携わってみると、豊富な経験と専門的な知識が必要とされることが分かり、大学時代にもっと色々な経験を積み、前向きに勉学に取り組んでおけば良かったと痛感しています。



職場で



市役所前で同期と

京都の教育の推進を目指して

京都市では、「二人ひとりの子どもたちを徹底的に大切にする」という伝統のもと、全国を牽引する教育改革を推進しています。その中で、私は人権教育を担当しており、人権の大切さを理解し、人権尊重を規範とした日常の行動がとれる子どもを育成を目指して日々奮闘しています。

その取り組みの一つとして、外国人児童・生徒等の日本語学習の支援のため、市立学校への日本語指導ボランティア派遣事業があります。通常は庁内での業務が中心ですが、学校現場に行く機会もあり、そこでボランティアの支えにより子どもたちが円滑に活動できている姿を見ると、微力ながら、人権教育を進める取り組みの一端を担っていると感じられ、嬉しく思います。そのような時に、この仕事をより一層頑張りたいと思います。

職場の人たち

職場では、常に上司や先輩に丁寧に指導していただき、嬉しく思っています。また、同期には、職場での小さな悩みなども相談しやすく、大きな支えになっています。

上司や先輩に学びながら、日常業務を頑張っていきたいです。

あ・と・ひ

一日二日を大切に

奈良市立大宮小学校・教諭
中野 響子

毎日が勉強です

37人の元気な子どもたちに囲まれ過ごす毎日。子どもたち一人ひとりが主人公となり、毎日いろいろなドラマが繰り広げられます。その中で教師として自分はどう関わっていけばよいか、毎日が試行錯誤の日々です。そんな時、初任者指導の先生のアドバイスをはじめ、先輩の先生方の姿からたくさんことを学ぶことができました。すると自分に足りないものが見えてきて、先生という職業の奥深さに改めて気づかされました。私の先生修行はまだまだ出発点に立ったばかりです。いつも新しいゴールに向かって頑張っている先生でありたいと思います。

思い出の宝箱となるクラスに

大なわは子どもたちに人気のある遊びの一つです。チームで決めた目標をみんなの力で達成できたときの喜びほど大きなものではありません。しかし、中には、跳びたくてもなわに入るタイミングがつかめず困っている子もいました。そこで、昔の遊び歌を周りの子どもたちみんなが歌い、自然にリズムに溶け込めるよう応援することにしました。すると、今まで跳べなかつた子が



校内の研究授業で

だんだん跳べるようになったのです。「跳べた〜！」と目をキラキラと輝かせ、自分の新しい力に出会った喜びでいっぱい表情を見せてくれたときの感動は、今でも忘れません。そして、この感動は、その子の頑張りを支えてくれたクラスの仲間にも広がっていました。「先生、跳べるようならはってんで、見て見て！」一人ひとりの成長の感動をみんなのものにできる、そんな素敵な思い出がいっぱいつまったクラスにしたいと思います。